

## 海外講演報告

1.	日程	2013年 10月 5日～10月 6日
2.	地域（概要含む）	クアラルンプール マレーシア
3.	担当者（人数・役割）	原田三千代（桜美林大学）
4.	海外講演の形態 （講演・シンポ・WS・その他）	講演＋WS ①1日目 9:00～17:00 午前：講演＋WS 午後：ポスター発表＋口頭発表 ②2日目 9:00～12:30 午前：ポスター発表＋口頭発表
5.	主催 （招聘・科研・個人・その他）	国際交流基金クアラルンプール日本文化センターおよび マラヤ大学(AAJ)共催（招聘）
6.	テーマ（タイトル）	「協働学習に着目した教室活動と評価—日本語作文教育 におけるピア・レスポンスを中心に—」
7.	内容の概要	9:20～12:20 ①今日の予定、自己紹介 ②個人、グループ活動：「協働学習」を考える 「協働学習」に対するメリット、デメリット、疑問点を ポストイットに書き、模造紙に貼りつける。 ③協働学習／ピア・ラーニングについての理論的背景 の紹介 ④教師フィードバックについて考える。 初級学習者の「日記」を提示し、どのようにフィード バックするかを考える。 自分自身の授業（原田）で行った結果の紹介 ⑤「書く」とは ピア・レスポンスについての理論的背景、先行研究 の紹介 ⑥ピア・レスポンスの体験 日本の「むかしばなし」を提示し、話の続きを考えて 文を書く。 その後グループで、「むかしばなし」を紹介し合い、ピ ア・レスポンスを体験する。 ⑦活動のふり返り→代表者に発表してもらう。 ⑧グループで「協働学習」について再度考えてまとめる。

		<p>→代表者に発表してもらおう</p> <p>⑨今回論文集に提出した研究（原田）を紹介しながら、総括をする。</p>
8.	参加者 (人数・背景・声など)	<p>1日目：108人　2日目：80人</p> <p>20代後半から60代まで（30代から40代が最も多い） 7対3ぐらいの比で女性が多い。</p> <p>日本語教育に関する研究会が年2回（3月は教師のためのセミナー、10月はWSをふくめた講演の形をとる）開催されている。</p> <p>教師の所属機関は予備教育の教師（マラヤ大学）、中等教育の教師、一般成人の学習者を対象とする教育機関の教師、非営利団体（日本語文化協会など）の教師などで、教師自身の日本語能力もN3～日本語母語話者までかなりの幅があった（特に中等教育の非母語話者の教師はN3ぐらいであったため、どのようなタスクにすればいいか苦慮した。）</p> <p>また、シンガポールやタイ（山口さん、桃井さん：お茶大修士生）などの参加もあった。</p>
9.	担当者の内省	<p>担当者自身、このような形の講演とWSは初めてだったので、非常に不安であったが、国際交流基金の方々に協力していただき、何とか終わらせることができた。みなさんに感謝したい。</p> <p>参加者は他者の発表を熱心に聴き、取り入れられるところは取り入れようと意欲的であった。</p> <p>母語話者、非母語話者、また、様々な所属機関の参加者と交流ができ、短い時間ではあったが、マレーシアの日本語教育について、概観することができた。</p> <p>参加者である教師自身の日本語能力にもかなりの差があったので、WSで使う題材に苦慮した。また、事前課題などを設けず、その場でできるようなものという指示があった。全員に適した題材を選定するのは難しいが、考慮する必要がある。</p>
10.	次回への課題	<p>人数の把握、講演、特にWSが行われる場所の確認を早くからしておくべきだった。100人を超える人数になること、WSの場所がいすと机が固定されている講堂だっ</p>

		<p>たこと、グループを着席してから決めることなど、予想していなかったのでやりにくい点はあったが、職員の方々がとても協力的で、グループワークの進行がうまくいくように、サポートしていただいたことに感謝したい。自分の授業風景をとった写真やビデオなどが紹介できればよかったが、いい写真が見当たらず、できなかった。時間配分は、何度も考えたが、それでも人数が多いと伸びていくので、今後留意したい。</p> <p>マレーシア支部の木村さんにもお目にかかり、来年はマラヤ大学で、WS が開催される予定であることもうかがった。</p>